

研究機関名：東北大学

受付番号： 2013-1-221
研究課題名 基礎分泌補充用インスリン、デグルデクのグラルギンからの切り替え例における血糖変動変化の検討
研究期間 西暦 2013年 9月（倫理委員会承認後）～ 2014年 2月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ カルテ(臨床データ) ）
上記材料の採取期間 西暦 2013年 4月～ 2013年 7月
意義、目的 －研究背景－ 従来、基礎分泌補充型インスリンとしては持効型インスリンであるグラルギンやデテミールが用いられてきた。特にグラルギンは作用時間が長いことから多くの例の基礎分泌補充に使用されてきた。しかしその効果発現にばらつきがあることも指摘されていた。(Heise T, et al.: Diabetes, 53(6); 1614-1620, 2004) 一方、本年3月に発売されたインスリン デグルデクはグラルギンよりもより作用時間が長く、ピークレスであり、加えて「その効果発現にばらつきが少ない」ともされている。(Heise T et al.: Diabetes Obes Metab 14(9):859-864, 2012) しかしグラルギンからデグルデクへの変更により血糖がどの様に変化するのかは不明である。 －研究目的－ グラルギンを basal insulin として使用していても血糖コントロールが不十分な糖尿病例におけるゲグルデクへの切り替えによる血糖変動の変化を明らかにする。 －意義－ 本検討は、既に行われたグラルギンからデグルデクの変更が、どの様な血糖変化を起こしたのかをきちんと評価することで、対象例も含めた多くの例の今後のインスリン治療のための重要な情報を得ることができより安全かつ効果的な治療を行うことが可能となる。これは、倫理的にも臨床的にも意義のあることと思われる。
方法 グラルギンからゲグルデクへのインスリン切り替え前後の血糖変動の変化を、自己血糖測定(SMBG)の測定値などを用いて後ろ向きに評価する。
問い合わせ・苦情等の窓口 東北大学病院 腎・高血圧・内分泌科 小川 晋 022-717-7163、022-717-7778